

放射線治療と分子標的薬の併用例における消化器有害事象に関する遡及的調査

日本放射線腫瘍学研究機構（JROSG）が行う上記調査研究に、会員施設として参加いたします。

研究の目的

近年、分子標的薬が悪性腫瘍の治療に用いられることが増えています。しかし、放射線治療と分子標的薬を併用した場合の副作用については不明な点がまだ多くあります。小腸や大腸が存在する腹部や骨盤部の放射線治療を行った方について、副作用の発生頻度や内容をカルテで調査して、分子標的薬との関連を調べるのが目的です

研究責任者

研究責任者：放射線科（治療部門）根来 慶春

対象症例と方法

当院において、平成25年1月から平成26年12月の間に、下部消化管（小腸や大腸）が照射範囲に含まれる放射線治療を受けられた患者さんが対象です。

対象となる症例について、カルテなどから診療情報を収集し、日本放射線腫瘍学研究機構に提供します。複数の施設から集められたデータを集計し、日本放射線腫瘍学研究機構が、分子標的薬使用の有無と副作用との関連について分析します。

予測される利益・不利益について

過去の診療実態に関する調査研究ですので、新たに検査や治療を追加するなど、個々の患者さんにご負担をかけることはありません。この調査の対象となっていることによって、研究的な投薬や治療が行われることはありません。

研究内容の開示について

研究計画書や、研究に関する資料は、ほかの患者さんの個人情報保護に抵触しない限り閲覧が可能です。

個人情報の保護について

今回収集された情報は、匿名化され、個人を特定できる情報が院外に漏れることのないよう細心の注意を払っております。日本放射線腫瘍学研究機構にデータを提供する際にも、個人を特定できないように加工したデータを提供します。学会その他での発表に際しても、患者さんの氏名、生年月日、住所などの、個人を特定できる情報、プライバシーにかかわる情報は一切公開されません。

研究結果の発表について

本研究の結果は、学会や医学誌での発表が予定されています。

知的財産権について

本研究でなんらかの知的財産権が発生した場合は、その権利は研究機関や研究者に属し、患者さんには属しません。

研究の拒否について

上記条件に該当する患者さんの中で、本研究への協力を拒否される場合は、いつでも参加を取りやめることができます。担当責任医師まで御一報下さい。なお、拒否されることで患者さんに不利益が生じることは一切ありません。

問い合わせ先

研究責任者：放射線科（治療部門）根来 慶春